

V 業務研究発表会への取組

平成16年度から始まった、赤谷プロジェクトエリアは、研究者や大学生の研究フィールドとして、広く利用されています。

研究対象は、多種多様で、動植物などの自然科学のほか、地域社会と自然の関わりなどの社会科学系の研究等、様々な視点で調査・研究活動が行われています。赤谷センターも、赤谷プロジェクト関係者と協力し、業務研究発表に参加しています。

1 赤谷センターにおける業務研究発表会への参加

年度	場所	課題等	備考
H18	林野庁	「赤谷プロジェクトにおける環境教育について」 発表者：赤セ：小川純、NJ：茅野恒秀、地協：林 泉	全国森林レクリエーション協会会長賞
H18	関東局	「赤谷プロジェクトにおける猛禽類モニタリング～赤谷の森における協働調査の実施と成果報告～」 発表者：赤セ：山本道裕、NJ：出島誠一、地協：松井睦子	
H22	関東局	「赤谷プロジェクト発足8年目を迎えるに当たって～赤谷の森管理経営計画書の策定～」 発表者：藤代和成	
H24	関東局	「赤谷プロジェクトって！知っていますか？」 発表者：栗田 喜則	
H25	関東局	「赤谷プロジェクトにおける市民参加のモニタリング調査（ホンドテンを指標種とした森林環境調査）」 発表者：赤セ：石坂 忠、赤Pサポーター：鈴木 誠樹	

※ H18年度の林野庁発表は、関東局の推薦枠の中で、林野庁で発表しました。

2 平成25年度関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会

平成26年2月12日～13日、平成25年度関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会が、前橋テルサ（群馬県前橋市千代田町2-5-1）にて開催され、国有林民有林あわせて26課題が2日間にわたり発表されました。

当センターからは、「赤谷プロジェクトにおける市民参加のモニタリング調査（ホンドテンを指標種とした森林環境調査）」（発表者：赤谷森林ふれあい推進センター自然再生指導官 石坂 忠、赤谷プロジェクトサポーター 鈴木 誠樹）と題して、赤谷プロジェクトで取り組んでいる、様々なモニタリングの中から地域住民と赤谷プロジェクトサポーターが中心となって行っているホンドテンを指標とした森林環境調査を紹介しました。



石坂自然再生指導官と鈴木サポーターの発表

VI 広報活動

1 赤谷センターにおける赤谷プロジェクト広報戦略の推進

赤谷プロジェクトの普段の活動は、基礎情報としての自然環境等のモニタリングや「生物多様性の復元」を目的として行った試験的な取組に対する動植物等の反応の把握などの地道な作業が大半です。

このような地道で長い年月に渡る取組は、国民の皆様からの支援なしでは成り立ちません。そのため赤谷プロジェクトの取組を知っていただくために、今までの広報活動の問題点を洗い出し効果的なPR活動を行うために「赤谷センターにおける赤谷プロジェクト広報戦略企画書」を平成24年度に作成し、広報活動に積極的に取り組んでいます。

○ 赤谷森林ふれあい推進センター赤谷プロジェクト広報戦略の特徴

- ・ 赤谷センター単独でも実施可能なこと
- ・ 月別取組目標を設定していること
- ・ 年間の実施スケジュールを設定していること
- ・ 実施にあたって、関連予算を確保していること
- ・ 毎年、広報戦略を作っていること
- ・ 赤谷センター内に担当スタッフを配置していること
- ・ 通常の業務とリンクしながら、進めて行けること

2 平成25年度 広報戦略7つのポイント

ポイント1：地域の核となる情報発信基地の活用

- ・ 「道の駅：たくみの里」や「利根沼田広域観光センター」常設のパネル等を活用し、四季を通じた情報発信を行う。
- ・ みなかみ町観光課へ働きかけを行い、上毛高原駅内の「みなかみ町展示場」を使用した広報活動を実現する。(P2 トピックスに掲載)
- ・ 県庁記者クラブ、沼田記者クラブとの関係を密にし、積極的な情報発信を行う。



利根沼田広域観光センター



たくみの里

ポイント2：情報誌「赤谷の森だより」の活用（7,000部）

- ・視察、研修等で、赤谷プロジェクトの取組をPRするため、新規に教育関係機関やNPO等に情報誌等を送付し、積極的な広報活動を展開する。
- ・赤谷の森だよりの配布先及び内容を見直し、予算削減を行いつつ、より効果的な紙面づくりを検討する。

			
<p>第1号～「赤谷プロジェクトかわら版」を発刊</p>	<p>第4号～「赤谷の森だより」と名称変更</p>	<p>第14号～紙面をより親しみやすく刷新</p>	<p>第23号～紙面をよりビジュアル的に刷新</p>

○情報誌の変遷

- 平成17年3月 広報誌第1号「赤谷プロジェクトかわら版」発刊
- 平成19年3月 広報誌第4号より、「赤谷の森だより」に名称変更（年3回発刊）し、みなかみ町内全戸に配布（発行部数11,000部）
- 平成20年5月 広報誌第8号より、発行部数を12,000部に増刷
- 平成22年5月 広報誌第14号からは、紙面をより親しみやすい内容に刷新
- 平成25年9月 広報誌第23号からは、よりビジュアル的な紙面及び経費の節減を目指し、紙面を刷新しました。（発行部数7,000部）

「新三国通信」発刊！（広報活動番外編）

センカメ仙人（石坂自然再生指導官）による「新三国通信」不定期で発刊！



センカメ仙人

みなかみオンパク2013で、提供したプログラム「センカメ仙人と行く赤谷の森」。内容は、自称「センカメ仙人」（センカメ：センサーカメラの略）と旧三国街道三坂線～三坂茶屋を散策し、途中センカメ仙人の指導のもと、参加者がセンサーカメラを設置しました。

このイベントを盛り上げるために作った「新三国通信」ですが、参加者と関係者だけの限定版です。（赤谷センターのブログには掲載しました。）

※ 詳細は、資料編P86に掲載



新三国通信

赤谷の森だよりvol. 23

- ・赤谷の森ミニ写真館「赤谷川上流」
【H25. 7. 18 溪流調査時に撮影】
- ・赤谷の森でわかったこと「打たれ強い水生昆虫」
【愛知工業大学教授：内田 臣一】
- ・新会長就任ご挨拶
【赤谷プロジェクト地域協議会：河合 進】
 - ・赤谷プロジェクトに関するイベント予定
 - ・赤谷プロジェクト活動トピックス（4月～7月）
 - ・赤谷プロジェクト、って？
 - ・赤谷プロジェクトサポーター募集！



赤谷の森だよりvol. 24

- ・赤谷の森ミニ写真館「赤谷の森のきのこ（タマゴダケ）」
- ・赤谷の森でわかったこと「赤谷の森でニホンジカが増えたらどうなるのか？」
【東京農工大学教授：梶 光一】
- ・赤谷プロジェクトに期待すること
【関東森林管理局計画保全部長：寺川 仁】
- ・2013みなかみオンパク（ココイラ）にパートナーとして初参加！
 - ・赤谷プロジェクトに関するイベント予定
 - ・お知らせ！（関係者の異動交代等）
 - ・赤谷プロジェクトの活動トピックス（8月～11月）
 - ・赤谷プロジェクト、って？
 - ・赤谷プロジェクトサポーター募集！



赤谷の森だよりvol. 25

- ・赤谷の森ミニ写真館「赤谷の森に春が来た！（春一番に咲く！マルバマンサク）」
【撮影者：青木邦夫（赤谷プロジェクトサポーター）】
- ・赤谷の森でわかったこと「森の地面で暮らす飛べない昆虫たち」
【宇津井環境調査事務所：宇津井 守】
- ・赤谷プロジェクトに期待すること
【(公財)日本自然保護協会保全研究部部長：朱宮 丈晴】
- ・赤谷の森学校開校しました！
 - ・赤谷プロジェクトに関するイベント予定
 - ・お知らせ！（平成25年度赤谷プロジェクト地域協議会総会）
 - ・赤谷プロジェクトの活動トピックス（H25. 11月～H26. 3月）
 - ・赤谷プロジェクト、って？
 - ・赤谷プロジェクトサポーター募集



ポイント3：ホームページ・メルマガを積極的に活用

赤い谷のブログを昨年同様に楽しくユーモアのあるブログを作成する。また、情報ソースの鮮度を意識した発信を行う。

昨年12月から参加している、「赤谷の森だよりメルマガ版」（関東森林管理局メールマガジン）の内容を見直しつつ、ブログや赤谷プロジェクト関係者のサイトとリンクを張った情報発信を行う。（メルマガは、4月～3月まで12回発信）

ポイント4：業務研究発表へ毎年参加

平成25年度は、サポーター等と協力し2課題の発表を目指す。

平成25年度関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会に参加

「赤谷プロジェクトにおける市民参加のモニタリング調査」という課題名で発表するとともに会場に赤谷プロジェクトPRパネル、パンフレットを配置し広報にあたりました。



ポイント5：イベントに積極的に参画

地域等が開催するイベントへ赤谷センター職員を派遣し、パネル・パンフ等を設置するとともにブース運営についてもアイデアを出しながら積極的に参画し、イメージアップを図る。

赤谷プロジェクト10周年記念企画を盛り上げるための支援を積極的に行う。既存のイベントを見直し、さらに高評価を得るような内容に見直す。

「21世紀の森フェスティバル」（群馬県沼田市）

平成25年8月25日（日）群馬県立森林公園「21世紀の森」で開催されました。出展した利根沼田森林管理署のブースでは、しおりづくり等を行いました。今年は、署の好意によりテーブル1枚のスペースをいただきました。赤谷センターでは、赤谷プロジェクトのパネル展示とネイチャークラフト体験（ヒノキ球果のストラップづくり）を行いました。



ストラップづくり

ポイント6：ふれあい業務等の技術的な指導及び支援を積極的に実施

赤谷センターの環境教育プログラムをNPO等及び管内各署等も含めて提供するなど、積極的に支援の拡大を図る。また、新たな環境教育プログラムの開発も行う。

研修・セミナー等を積極的に受け入れる。また、受入れのための広報活動を積極的に行う。

ポイント7：赤谷センター作成・監修アイテムを活用した広報活動

赤谷の森野生生物カードを現在の40種から50種に増やすとともに、ロケットリーフを環境教育アイテムとして、活用できるようなプログラムを開発する。

(No.41:キアゲハ・No.42:シオカラトンボ・No.43:クジャクチョウ・No.44:ホオジロ・No.45:ニホントカゲ・No.46:エゾハルゼミ・No.47:モズ・No.48:アズマヒキガエル・No.49:ホンドキツネ・No.50:カシラダカ)

3 関東森林管理局広報誌「関東の森林から」への寄稿

平成25年度は、「赤谷の森」で行われているモニタリング活動や赤谷センターが取り組んでいるふれあい業務なども、よりわかりやすく、より多くの方に興味をもって頂けるように内容を検討しながらを寄稿しました。

番号	発行月	内 容	
109号	4月	<p>「南ヶ谷湿地周辺の間伐を終えて」</p> <p>赤谷の森にはプロジェクト関係者が「南ヶ谷湿地」と呼んでいる湿地があり、そこにはモリアオガエル等の湿地特有の希少な動植物が生息しています。この湿地とその周辺の人工林の扱い（南ヶ谷湿地保全管理計画2011）について紹介。</p>	
112号	7月	<p>「持続的な地域づくりに向けて」</p> <p>「持続的な地域づくり」をテーマに取り組んでいるのが、赤谷プロジェクト地域協議会と地域づくりWGです。今回は、水源保全活動「ムタコの日」や「旧三国街道マップづくり」など様々な取組を紹介。</p>	
115号	10月	<p>「ロケットリーフ」の様々な活用</p> <p>～大空高くロケットリーフで支援のWA！～</p> <p>赤谷センターでは、(一) 猿ヶ京小学校スポーツアカデミーから子供も大人も気軽に楽しめる環境教育教材の開発を相談され、カエデの種をヒントに「空飛ぶタネの模型（名称：ロケットリーフ）」を開発しました。その取組を紹介。</p>	
118号	1月	<p>「市民参加のモニタリングで見てきた赤谷の森」</p> <p>ホンドテンモニタリングは、サポーターが中心となり、毎月の「赤谷の日」等で、林道を歩いてテンの糞のサンプリングをしてくれました。今回はその成果で見てきた赤谷の森を紹介。</p>	
120号	3月	<p>「赤谷プロジェクト10周年シンポジウム」</p> <p>平成26年3月9日東京農工大学において、日本各地で「地域づくり」に携わり活躍されている方々をゲストにお迎えし、開催したシンポジウムについて紹介。</p>	

Ⅶ その他の活動

1 赤谷の日

「赤谷プロジェクト・サポーター要項」の改定に伴い、「赤谷の日」の定義がしっかりと位置付けられました。

今年度は、新赤谷の日の活動として、赤谷プロジェクトに貢献する、取組やチーム企画活動等より「赤谷の日」の活動範囲が広がりました。

(1) 赤谷の日とは

「赤谷の日」とは、原則毎月第1土曜日から翌日曜日の朝まで行っている赤谷プロジェクトの活動支援日です。多くの方たちに赤谷プロジェクトを知っていただくための入り口でもあります。サポーターと共に、そのご家族、ご友人もお誘い頂けます。

赤谷プロジェクトの活動拠点であるいきもの村に集まり、各WGが実施しているモニタリング活動や、いきもの村の環境整備等を実施しています。

(2) 「赤谷の日」の主催者等

「赤谷の日」は赤谷プロジェクトが主催します。当日の運営は、赤谷プロジェクト地域協議会、日本自然保護協会、赤谷森林ふれあい推進センターの3者が持ち回りで行います。各回の活動メニューについては前月の赤谷の日までに運営担当者からご案内します。

(3) いきもの村の利用

いきもの村には、調査用具の保管やミーティングに使う「村の家」と、作業・活動の休憩場所である「たくみ小屋」があります。「赤谷の日」には、どちらも使う事ができます。「赤谷の日」終了後は、いきもの村内は、自由に散策できますが、建物内には入れなくなります（「チーム企画活動」での利用を除く）。

(4) 「赤谷の日」終了後について

「赤谷の日」は日曜日の朝7時に終了します。その後は自由行動となりますので「チーム企画活動」へのご参加や、個人やご家族の自主的な活動などにご利用下さい。また、日本自然保護協会等プロジェクト3セクターがプログラムを用意することがあります。

(「赤谷プロジェクト・サポーター要項」より抜粋)

赤谷の日 (5月)

新赤谷の日が始まりました。赤谷森林ふれあい推進センターは、5・6月のホストです。

自己紹介後に、赤谷の日の説明をNACS-J出島氏が行いました。また、今回から簡単な参加者確認票を作成し、今後赤谷の日にやってみたいことなどの要望・意見を集めるようにしました。

○活動メニュー

- ・旧三国街道マップモニターと三坂茶屋ゴミ集め
- ・南ヶ谷湿地周辺の間伐作業後の影響調査



ミーティングの様子

赤谷の日（8月）

平成25年度8月3日（土）8月赤谷の日を利用して、赤谷プロジェクト主催（共催：みなかみ町環境課）で、まんてん星の湯（群馬県みなかみ町猿ヶ京温泉）をメイン会場として「赤谷の日祭り」を開催しました。



赤谷プロジェクトブース

○開催趣旨

今年、赤谷プロジェクトがみなかみ町新治地区で発足してから、10年目になります。この節目の時期により多くの地域の皆様に、みなかみ町内の約1万ヘクタールの「赤谷の森」を舞台に取り組んでいる「生物多様性の復元」や「持続的な地域づくり」などの活動を楽しく体験できる機会として、また、「赤谷の日」に気軽に参加していただける機会として、「赤谷の日祭り」を開催しました。

「赤谷の日」祭り ～「赤谷の森」ってどんなところ？～

<日程等>		<スケジュール>	
主催：赤谷プロジェクト	共催：みなかみ町環境課	09:00	プログラム受付開始
日時：2013年8月3日（土）	10:00 - 15:30	10:00	「赤谷の日」祭り開会式
集合場所：猿ヶ京「まんてん星の湯」	10:00 - 15:30	10:30	プログラム開始
で受付	※ 全コース参加費無料	12:30	午前プログラム終了
		13:30	午後プログラム開始
		15:30	午後プログラム終了

お子様連れも大歓迎！お気軽にご参加ください！

<プログラム>

- ①旧三国街道・三国峠を歩こう！**（午前/午後）
午前：約200年のブナ林と黒子湧水を発見に行こう！
午後：「三国権現湧水」を見に行こう！
ブナ・ミズナラの気持ちの良い森と旧三国街道の歴史を楽しむお散歩コース。
- ②茂倉沢深流環境復元の現場見学ツアー**（午前）
源流部における防災機能を維持しつつ、深流環境における生物多様性を復元する取り組みを見学するコースです。
- ③小出俣自然林復元の現場見学ツアー**（午後）
人工林を部分的に伐採した後、自然の力により本来の多様な樹種からなる森林をつくる取り組みを見学するコースです。
- ④いきもの村ツアー**（午前/午後）
赤谷プロジェクトの拠点として活用している「いきもの村」の観察路を散策しながら、野生動物のくらしや、様々な植物を見たり、聞いたり、感じることもできるコースです。
- ⑤ネイチャークラフト**（10:30～終日）
木の片やビニールの球を糸でストロップづくり、「まんてん星の湯」前で、行っています。

※服装・準備するもの等
服装は、谷間散歩ができるような服装（帽子、手袋、長靴・登山靴等、雨具等）としてください。小雨決行、雨天決行中止します。飲み物はご持参ください。

※ 作業時間の目安は、1時間程度です。

※ 当日の緊急連絡先：赤谷森林ふれあい推進センター携帯：090-4967-6830

○平成25年度 赤谷の日活動実績

年	月	日	参加者数						ホスト	全体活動内容	
			サポーター	地域協議会	赤セ	NACS-J	林野職員	その他			計
2013	4	6						0		悪天候のため中止	
2013	5	11	10	4	3	2		19	赤セ	間伐実施箇所環境調査（南ヶ谷湿地・作業道測量）・三坂茶屋跡ゴミ拾い	
2013	6	1	7	2	3	2	1	15	赤セ	いきもの村環境整備（倉庫掃除・観察路刈り払い）	
2013	7	6	11	2	1	1		15	N-J	いきもの村環境整備（県道沿い・トレイルの草刈り）・南ヶ谷湿地周辺人工林間伐の影響調査	
2013	8	3	12	6	3	2		23	地協会	「赤谷の日」祭り ①旧三国街道・三国峠を歩こう！②茂倉沢深流環境復元の現場見学ツアー③小出俣自然林復元の現場見学ツアー④いきもの村ツアー⑤ネイチャークラフト	
2013	9	7	10	0	3	3	2	18	N-J	小出俣試験地芽生え調査・いきもの村環境整備・「akaya」カフェ運営	
2013	10	5	12	2	2	1		17	赤セ	オンパク・センカメ仙人（参加者5名）・AKAYAカフェ	
2013	11	2	10	2	2	2	1	17	赤セ	ホンドテンモニタリング体験・分収育林他のニホンジカ調査	
2013	12	7	6	1	3	2	2	14	N-J	猛禽類モニタリング体験・ホンドテンモニタリング体験・AKAYAカフェ	
2014	1	休み						0			
2014	2	休み						0			
2014	3	1						0		大雪のため中止	
小計			78	19	20	15	3	3	138		

2 平成25年度を振り返って（赤谷センター職員）

平成25年度は、前年度から引き続き3名体制でのスタートとなりました。一人足りない分は気力で補い、調査活動はもとより、環境教育に新たなプログラムの導入や赤谷プロジェクト10周年記念行事に取り組みました。

また、上毛高原駅に期間限定で赤谷プロジェクトPRブースを設置するなど普及・啓発活動が前進した年となりました。

赤谷センター所長 ひろはし じゆん 廣橋 潤（～H25. 9. 30退官）



上席自然再生指導官

忙しい一年になるかな、という予感がありました。ほとんど勢いで始めてしまった溪流調査だけとは頑張ったのですが、完成できずに降板となりました。

その他にもたくさんやり散らかしてきてしまいましたが、後を引き継いでくれた藤澤所長を始め、石坂さん、栗田さん、きれいにまとめてくれて本当にありがとうございました。

これからも赤谷プロジェクトと赤谷センターを遠くから応援しています。



溪流環境調査の様子

赤谷センター所長 ふじさわまさし 藤澤 将志（H25. 10. 1就任～）



上席自然再生指導官

平成25年10月に着任して以降、林野庁研修や環境省自然保護官研修の講師など「所長の出番」が多い中、また、10数年ぶりの現場に加えて初めての猛禽類調査など盛りだくさんの業務の中、経験豊富な赤谷センターのすけさん、かくさん？に支えられ、何とか平成25年度を乗り切ることができました。

来年度も引き続き、赤谷プロジェクト地域協議会、（公財）日本自然保護協会、各WG委員のみなさま、そして、赤谷プロジェクト・サポーターのみなさまと協働して赤谷プロジェクトの推進に努めていたいと思います。



林野庁研修の様子

赤谷センター ^{いしざか}石坂 ^{ただし}忠 (～H26. 3. 31退官)



自然再生指導官

この度、退職することになりました。退職後は今までの業務とは全く違う仕事になりますが、何事もチャレンジする精神で頑張りたいと思います。

赤谷プロジェクト発足時からの赤谷センター職員ですが（途中3年間の空白あり）、10年目の節目を見ることができました。この10年間は誠に申し訳ありませんが、自分の持っている知識や技術を発揮できないまま過ぎてしまいました。

しかし、猛禽類、哺乳類、植物類などで新しい知識を得ることが出来ました。いろいろ御教授いただいた皆様に感謝致します。

在職中はいろいろお世話になりました。今後は赤谷プロジェクトを知るみなかみ町民のひとりとして皆様のご活躍を祈念致します。



猛禽類調査の様子

赤谷センター ^{くりた}栗田 ^{よしのり}喜則



自然再生指導官

昨年から、始めた赤谷センターにおける広報戦略も2年目に入り、JR上毛高原駅のPRブースの設置や赤谷プロジェクト10周年記念行事など広報活動が充実した一年でした。また、地域のイベントや環境教育の依頼など様々なところからお声をかけていただき、所長を始め職員全員で、協力し取り組んだおかげですべての依頼をお断りすることができました。

来年度もフル回転で？頑張ります(^o^)/



猿ヶ京温泉花火大会